

明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって良い年になりますようにお祈りしています。昨年は多くの人命が失われました。世界では西アフリカで流行したエボラ出血熱、イスラム国の残虐な殺戮、日本では広島土砂災害、御嶽山の突然の噴火等 この世の終わりが近づいているのではと思うほどの出来事でした。羊年の今年には優しさに包まれた年になって欲しいと思います。人は人との関係の中で自分という者が何者であるのかが分かってくる。その通りだと思ふのです。社会全体が向かう方向はどこなのか？私はその方向に対してどんな気持ちを持つのか？私が医者として言えることは、お互いに助け合って生きていくしかこの超高齢化社会を生き延びる方法はないということです。経済成長はあり得ない話です。一部の企業のために庶民が犠牲になっては、将来の日本はあり得ません。過去の価値観から今こそ脱却する時だと思ふます。

### 【最近目立つ病気】

嘔吐・下痢のウイルス性胃腸炎や溶連菌感染症がひき続き目立っています。長びく咳の方も相変わらず多いです。アレルギーが関与していると思われる方や、風邪の繰り返しで気道が過敏になっている方、乳幼児ではRSウイルス感染症後に気道過敏になっている場合もあります。副鼻腔炎やマイコプラズマ感染症が原因の方もいらっしゃいますが、経過をみないとすぐには診断が付きません。ウイルス性胃腸炎は、目立ってきましたが、例年のようなノロウイルス感染症の大流行はありません。

A 香港型のインフルエンザが12月に入って流行しはじめました。新型インフルエンザの流行を除けば、ここ数年来こんなに早期の流行はなかったことです。寒波の襲来が早かったことも影響しているのでしょうか。他に、ここ数年流行が4月頃まで続くことが多いので、遅めにワクチン接種をする人が多かったのも原因かもしれません。

他に伝染性紅斑（リンゴ病）や水痘、伝染性単核症（EBウイルス感染症）、アデノウイルス感染症、おたふくかぜ等が散発的にみられています。

### 【伝染性単核症(EBV感染症)】

Epstein-Barr virus : EBVは、ヘルペスウイルスに属しています。

血液中に多数の異型リンパ球の出現を伴う単核細胞の増加が見られる感染症であることが、「伝染性単核症」の名前の由来です。

大部分の人は、一生の間EBVに感染します。多くの子どもがEBVに感染しますが、無症状であったり、軽い症状の場合がほとんどです。幼児期にEBVに感染しないで、思春期や若者時代に初めてEBVに感染した場合には、35~50%が、伝染性単核症になると言われています。症状は、発熱、咽頭痛、およびリンパ節の腫れです。発熱は、見られない場合もありますが、発病から数日目が最も高熱で、以後は徐々に解熱します。リンパ節の腫れは、首で目立ちます。脾臓や肝臓が腫れることがあります。肝機能障害を伴うこともあります。他のヘルペスウイルス属と同じように治癒後もEBVは、体内から全部消

えてしまうわけではなく、のどや血液中の細胞の中で潜伏・休眠状態に入ります。そして、ときどきEBVは潜伏・休眠状態から目覚めて再活性化し、唾液の中にEBVが出てきます。この再活性化時は通常、症状は出ません。EBVは、免疫に係る細胞の中でも潜伏・休眠状態に入りますが、まれにパーキット-リンパ腫や鼻咽頭癌といった悪性腫瘍の発生に関与することがあります。

また、EBVによる感染の主要な経路は、感染者の唾液との濃密な接触だと考えられています。例えば、キスなどによって、EBVが受け渡され感染することになります。潜伏期間は、4-6週間です。

### 【エボラ出血熱】

以下は、

<http://www.forth.go.jp/topics/2014/12251453.html> から引用です。

12月24日付けの世界保健機関(WHO)の情報によるとエボラウイルス病の発生状況は以下のとおりです。

#### （要点）

●エボラウイルス病の患者数は19,497人、死亡者は7,588人になりました。

●報告される患者発生率が、ギニアでは上下に変動しており、リベリアでは低下しています。

●シエラレオネでは、国の西部地域では流行が最も深刻な状態が続いていますが、患者発生率は低下する兆候がみえています。全力で対策への努力が続けられ、感染地域の拡大を阻止することに注がれています。

#### （要約）

2014年12月21日（第51週）までに報告されたエボラウイルス病の疑い例から確定例までの患者数は19,497症例、死亡者数は7,588症例となっています。報告は、感染の影響を受けている4か国（ギニア、リベリア、マリ、シエラレオネ）と過去に影響を受けた4か国（ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカ合衆国）からです。

報告されている患者発生率が、ギニアでは上下に変動し、リベリアで

は低下しています。シエラレオネでは患者発生率は低下する兆候がみられ、現在は増えていません。国の西部地域は流行が最も深刻な状態にあります。全力で対策への努力が続けられ、感染地域の拡大を阻止することに注がれています。最も流行が深刻である3か国を通しての患者死亡率（致死率）は、信頼のある記録では70%です。

2015年1月1日までにエボラウイルス病に対する安全な埋葬と患者隔離の達成を100%にするという目標に向かって、流行3か国への介入が続けられています。それぞれの国のレベルでは患者隔離と埋葬への対応能力が整いつつあります。

現在までに、マリ、ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカ合衆国の5か国で、流入患者が報告されています。

アメリカ合衆国では、死亡者1名を含む4例の感染がありました。ニューヨークの医師とテキサスの看護師2人は2回のエボラ検査陰性の結果を得て退院しました。すべての患者が退院し、この国では全ての接触者が21日間の健康監視期間を完了しました。



☆大手町の夜間急病診療所（Tel:222-0099）では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は1/2、1/25、3/1、3/26の予定です。なお、2/8は当番医です。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン（おたふくかぜ・インフルエンザ）についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆インフルエンザワクチン接種を実施しています。（H27.1月下旬終了予定）

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

